

ヤングケアラー実態調査の結果について

出雲市におけるヤングケアラーの実態や課題を把握し、今後の支援策の基礎資料とするとともに、児童生徒に対し、ヤングケアラーの正しい知識や相談窓口を知ってもらうことを目的として、アンケート調査を実施しましたので、その概要を報告します。

1. 調査対象及び回答状況

市内の学校に通う小学6年生、中学2年生、高校2年生

調査対象者	調査対象者数	有効回答数	回答率
小学6年生	1,557人	1,267人	81.4%
中学2年生	1,502人	963人	64.1%
高校2年生	1,522人	855人	56.2%
合計	4,581人	3,085人	67.3%

2. 調査内容

国が実施したヤングケアラーの実態に関する調査※に準じた内容

(小学6年生：19問 中学2年生：21問 高校2年生：22問)

※「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究」、
「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究」

3. 調査方法

各学校を通じ、児童生徒に依頼文（調査フォームの二次元コード等記載）を配布し、児童生徒用のタブレット等で回答（回答は任意）

4. 調査期間

令和5年9月11日(月)～10月11日(水)

5. 調査結果 []内は概要版のページ

(1) 家族の世話の実態

・世話をしている家族が「いる」と回答した割合は、以下のとおり [P5]

調査対象者	出雲市	参考(国)
小学6年生	11.2% (8人に1人)	6.5% (15人に1人)
中学2年生	7.2% (13人に1人)	5.7% (17人に1人)
高校2年生	4.3% (23人に1人)	4.1% (24人に1人)

・世話の内容は、「家事」、「話を聞く」、「見守り」が高い傾向 [P6～7]

(2) 世話についての相談の有無

・世話について相談した経験が「ある」と回答した割合は10.0%未満 [P11]

・相談相手は「家族」が最も高い割合 [P12]

・相談したことがない理由として、以下の回答が高い割合 [P13]

「相談するほどの悩みではない」

「相談しても何も変わらないから」

「家族外の人に相談するような悩みではない」

(3) 学校や大人に求める支援

以下の回答が高い割合 [P14~15]

- ・「話を聞いてほしい」
- ・「相談にのってほしい」
- ・「勉強を教えてほしい」
- ・「自由に使える時間がほしい」

(4) ヤングケアラーの自己認識と認知度 ※中高生のみ設問

- ・自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した割合は以下のとおり [P15]

調査対象者	出雲市	参考(国)
中学2年生	1.0%	1.8%
高校2年生	1.9%	2.3%

- ・ヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は、以下のとおり [P16]

調査対象者	出雲市	参考(国)
中学2年生	27.3%	6.3%
高校2年生	49.5%	5.7%

6. 今後の支援の方向性

(1) 「ヤングケアラー」の正しい理解の促進と周知啓発

子どもが子どもらしく将来への夢や希望を持ち続けられるよう、ヤングケアラーの相談支援につなげるためには、子ども自身が置かれた状況を認識するだけでなく、周囲の気付きを進めることも大切である。そのため、ヤングケアラーの正しい理解の促進と周知啓発に今後も努めていく。

(2) 子どもの気持ちに寄り添ったサポート体制づくり

ケアを行う子どもの気持ちや状況は様々であるため、困ったときに安心して相談できる環境やサポート体制づくりが必要である。

市においても、相談窓口の周知に努めるとともに、支援のスムーズな橋渡しができる体制づくりを進めていく。

(3) 福祉・教育・保健医療・地域団体（地域資源）など関係機関の連携した支援

ヤングケアラーが担う世話の内容は一律ではなく、時間の経過とともに支援内容も変化していくため、関係機関と連携し、継続した支援が必要である。

そのためには、福祉・教育・保健医療等のフォーマル（公的）な機関だけでなく、インフォーマルな地域団体と連携することも重要である。相談までは必要ない（あるいは相談しづらい）と思うヤングケアラーにとって、気軽に話せる身近な存在となりうる地域の団体は、支援につながる一つの受け皿になる可能性がある。こうした地域団体も含めた関係機関と日ごろから連携し、切れ目のない支援を行っていく。

出雲市
ヤングケアラー実態調査
調査報告書 概要版

令和6年3月
出雲市

調査概要

1. 調査の目的

本来大人が担うべき家事や家族の世話を日常的に行うことで学校生活や学習に支障をきたしている「ヤングケアラー」が、子ども自身の権利が守られていないとして、近年、社会的に大きく注目されている。国においては、令和2年度及び令和3年度に実態調査が行われ、全国のヤングケアラーと思われる子どもの実態が把握されたところである。

このような背景があるなか、本市におけるヤングケアラーの実態や課題を把握し、今後の支援策の基礎資料とするとともに、児童生徒に対し、ヤングケアラーの正しい知識や相談窓口を知ってもらうことを目的として、アンケート調査を実施した。

ヤングケアラーについて:

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っているこどものこと。責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがある。



障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

出典:こども家庭庁 (<https://www.cfa.go.jp/policies/young-carer/>) (参照 2023-12-20)

調査概要

2. 調査対象者

市内の学校に通う小学6年生、中学2年生、高校2年生(以下、「調査対象者」という。)を対象とする。(令和5年5月1日時点 児童生徒数)

対象	調査対象者数
小学6年生	1,557人
中学2年生	1,502人
高校2年生	1,522人
合計	4,581人

3. 調査方法

各学校を通じて児童生徒(調査対象者)向けに調査依頼文、保護者向け(高校を除く)に調査のお知らせ文を配布した。(調査の実施については、市ホームページにも掲載。)

児童生徒本人が、児童生徒用のタブレット等で、調査依頼文のQRコードからWEB上のアンケートフォームにアクセスし、校内等で回答した。アンケートフォームの言語は日本語版及びポルトガル語版を作成した。

4. 調査期間

令和5年9月11日(月)～令和5年10月11日(水)

5. 回答状況

調査対象者	調査対象者数	有効回答数	回答率
小学6年生	1,557人	1,267人	81.4%
中学2年生	1,502人	963人	64.1%
高校2年生	1,522人	855人	56.2%
合計	4,581人	3,085人	67.3%

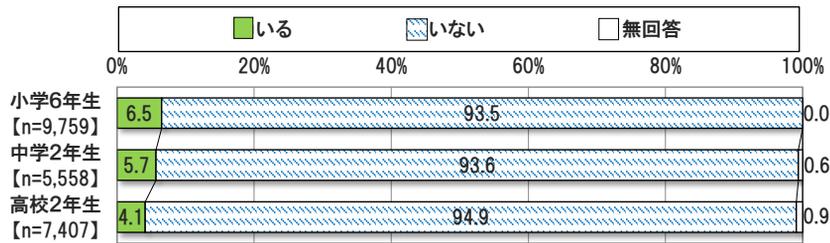
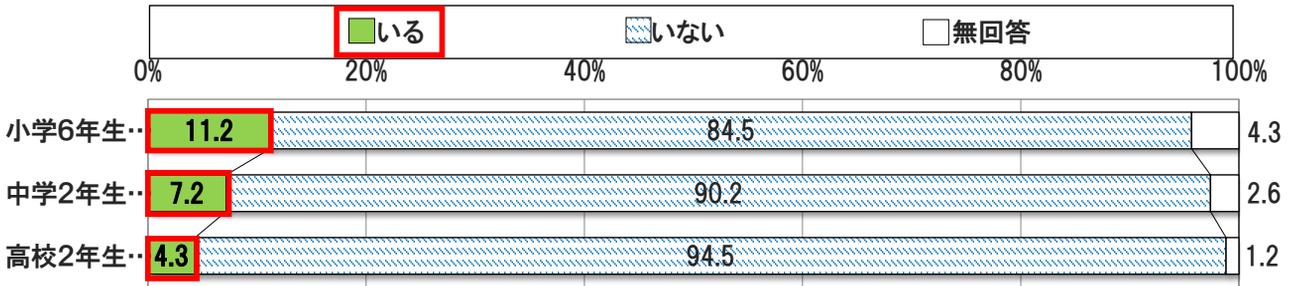
※有効回答数はWEB上のアンケートフォームの回答数で、各学年における日本語版とポルトガル語版の回答数の合計値

6. 集計・分析上の留意事項

- (1)調査票については、国の『令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究』及び『令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究』(以下、上記2種の調査をまとめて「国の調査」という。)における調査票を参考に設問を作成している。集計・分析結果との比較資料として、国の調査の報告書を参照している。
- (2)回答結果の集計値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%とならない場合がある。
- (3)複数回答の設問は、該当設問の有効回答数を基数とし集計しているため、合計が100%を超える場合がある。
- (4)各設問の有効回答数はグラフ中に【n=〇】で表記している。

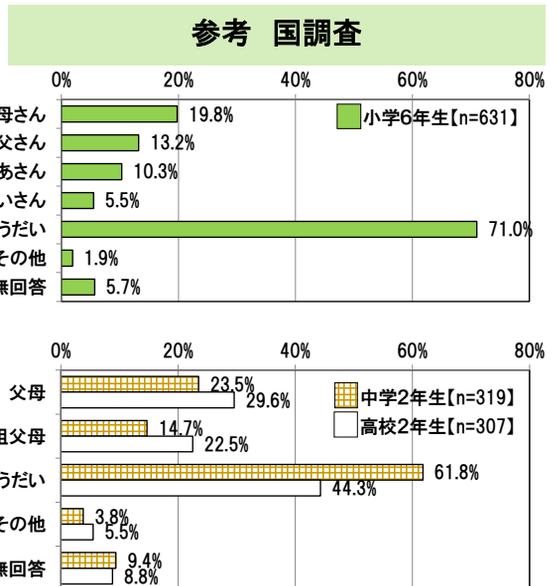
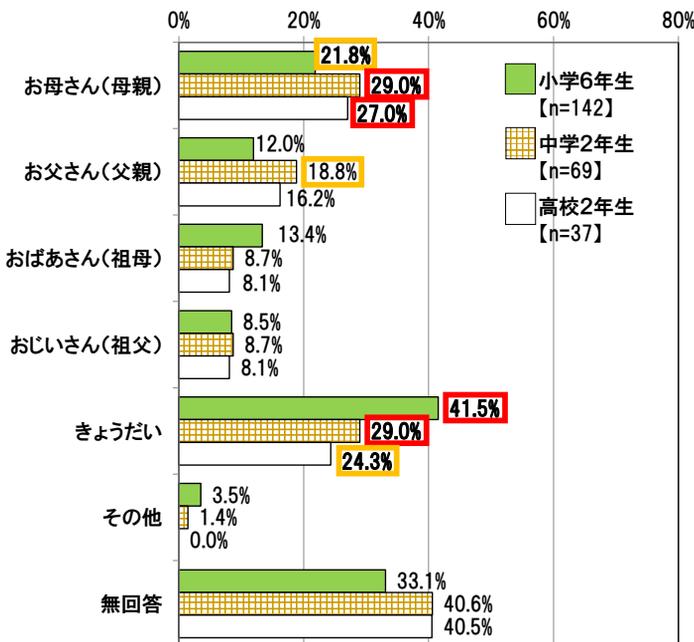
① お世話をしている家族の有無

- 「いる」は、小学6年生で**11.2%**(8人に1人)、中学2年生で**7.2%**(13人に1人)、高校2年生で**4.3%**(23人に1人)となっている。低学年になるにつれて割合が増えている傾向が見える。
- 国の調査では、小学6年生で**6.5%**(15人に1人)、中学2年生で**5.7%**(17人に1人)、高校2年生で**4.1%**(24人に1人)であり、本市の割合が高くなっている。



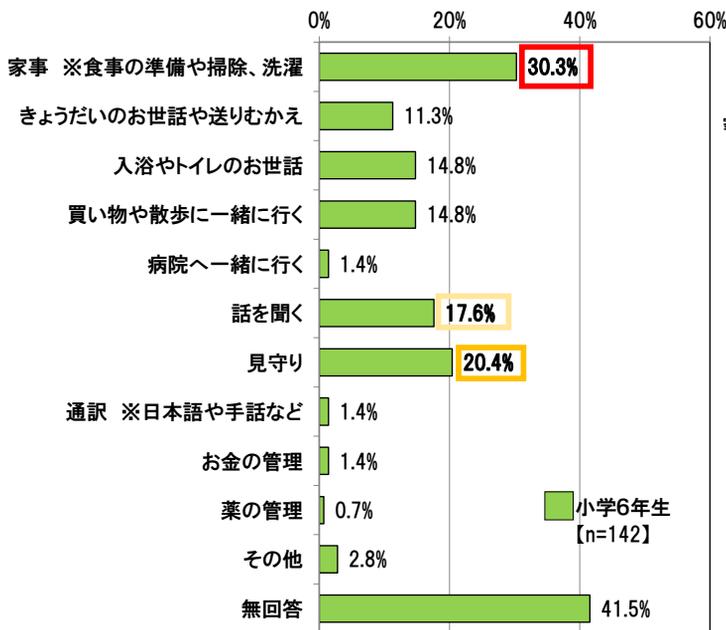
② お世話を必要としている家族

- お世話を必要としている家族は、すべての学年で「きょうだい」や「お母さん(母親)」が高くなっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、国の調査結果と類似した傾向である。

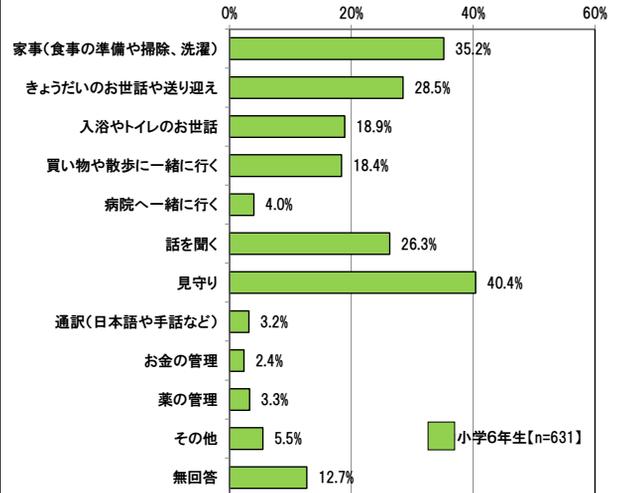


③ お世話の内容(小学6年生)

- お世話の内容は、小学6年生は「家事 ※食事の準備や掃除、洗濯」(30.3%)や「見守り」(20.4%)、「話を聞く」(17.6%)が高くなっている。

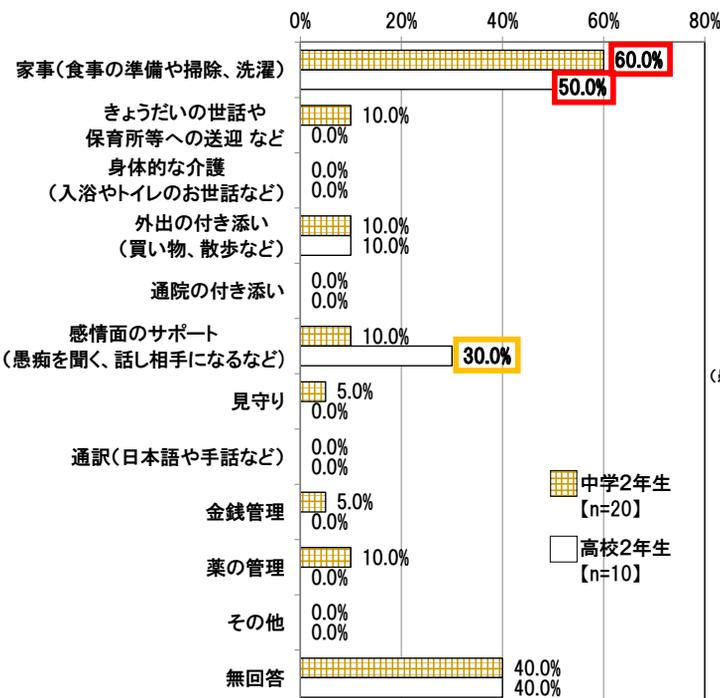


参考 国調査

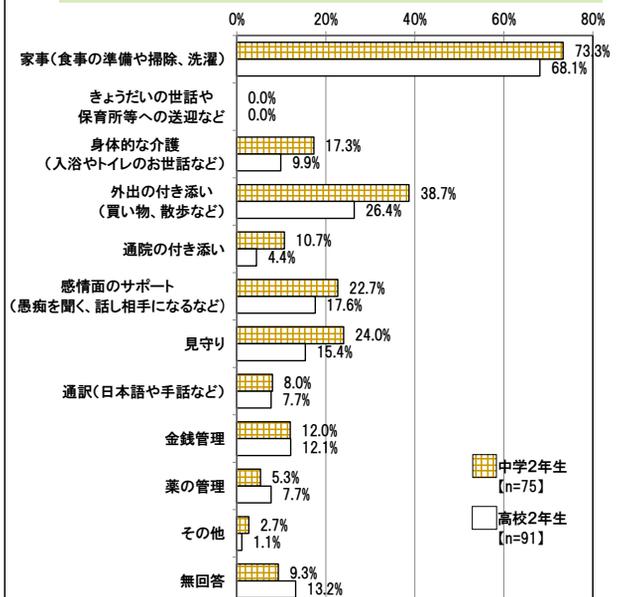


④ お世話の内容(父母)(中学2年生、高校2年生)

- 中学2年生、高校2年生の父母のお世話の内容は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が高くなっている。そのほかでは、高校2年生は「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」(30.0%)が高くなっている。

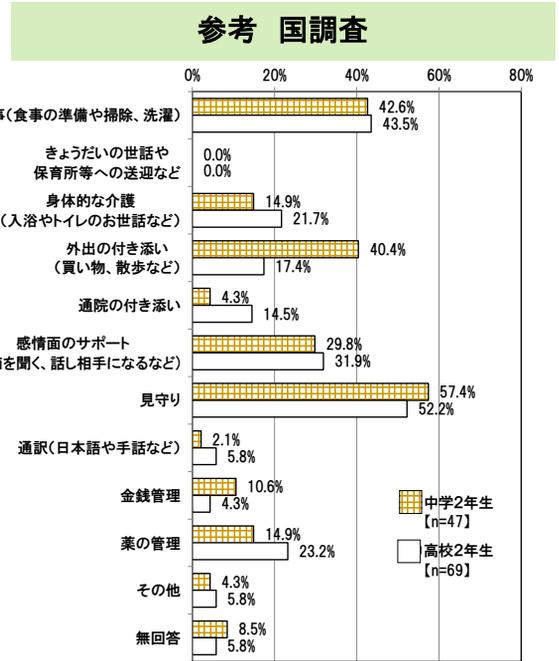
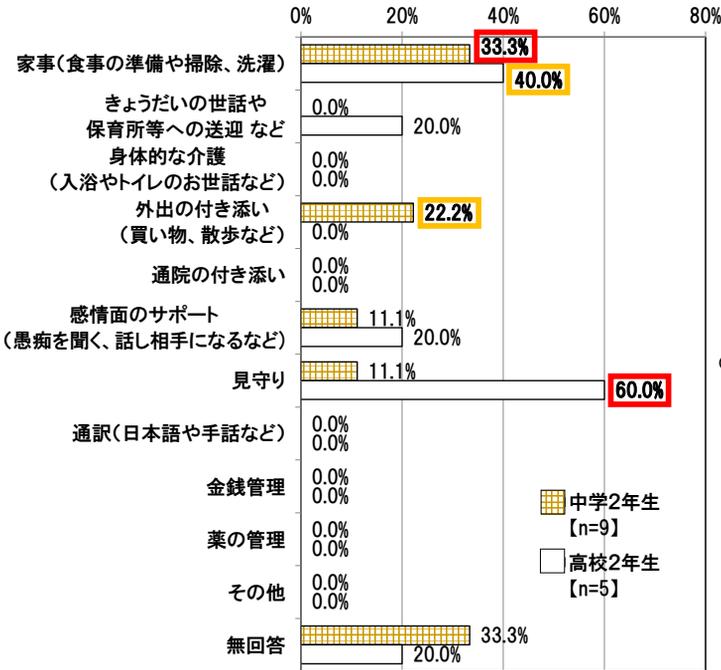


参考 国調査



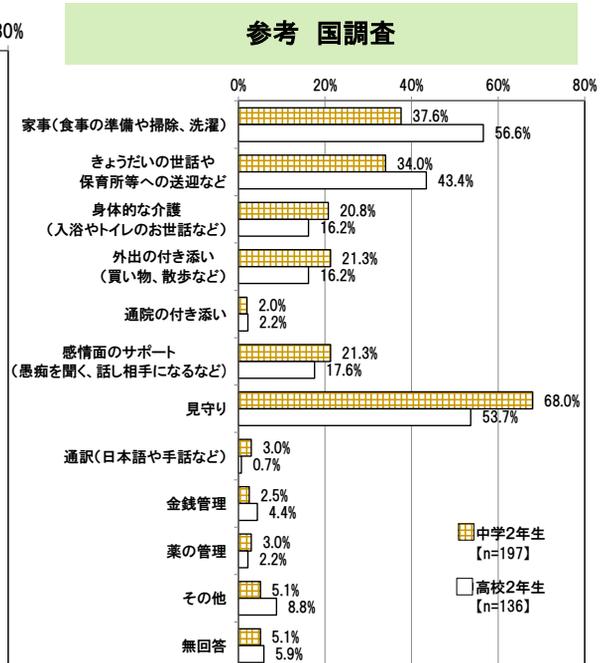
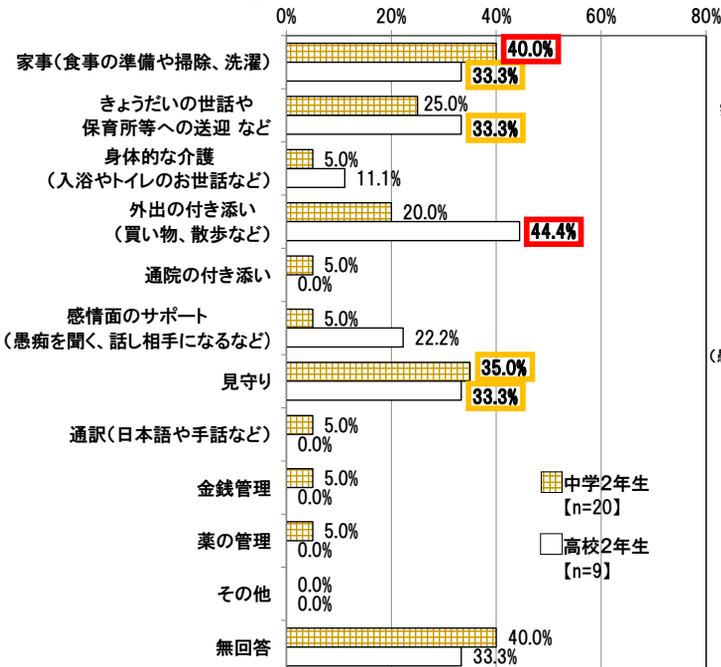
⑤ お世話の内容(祖父母) (中学2年生、高校2年生)

- 中学2年生、高校2年生の祖父母の世話の内容は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が高くなっている。高校2年生では「見守り」(60.0%)が最も高くなっている。



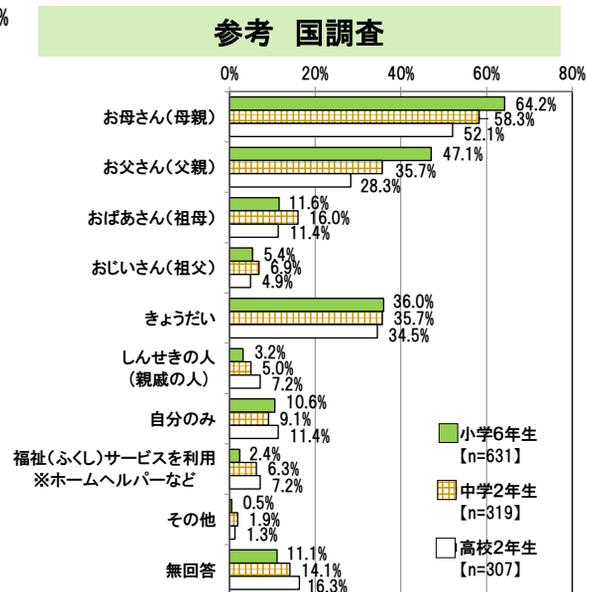
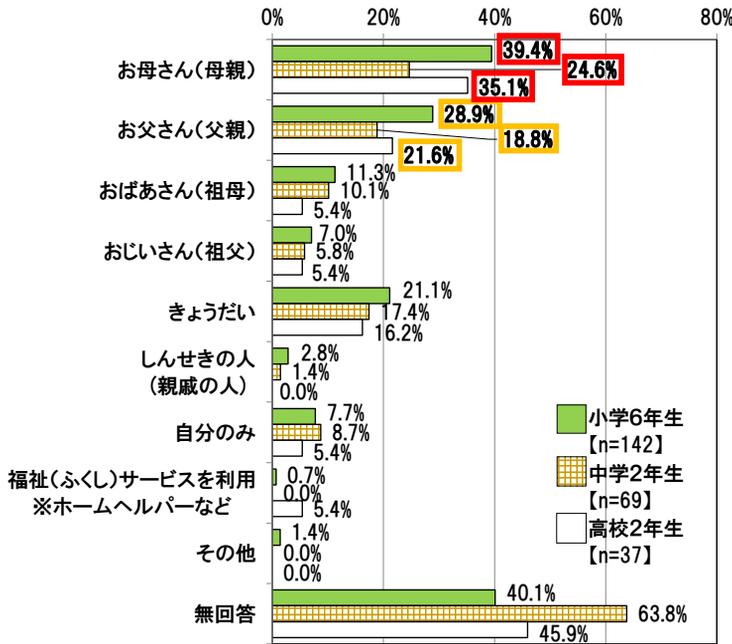
⑥ お世話の内容(きょうだい) (中学2年生、高校2年生)

- 中学2年生、高校2年生のきょうだいの世話の内容は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「見守り」が高くなっている。そのほかでは、高校2年生の「外出の付き添い(買い物、散歩など)」(44.4%)や「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」(33.3%)が高くなっている。



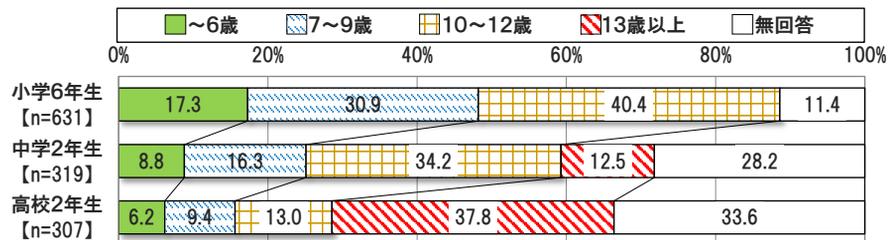
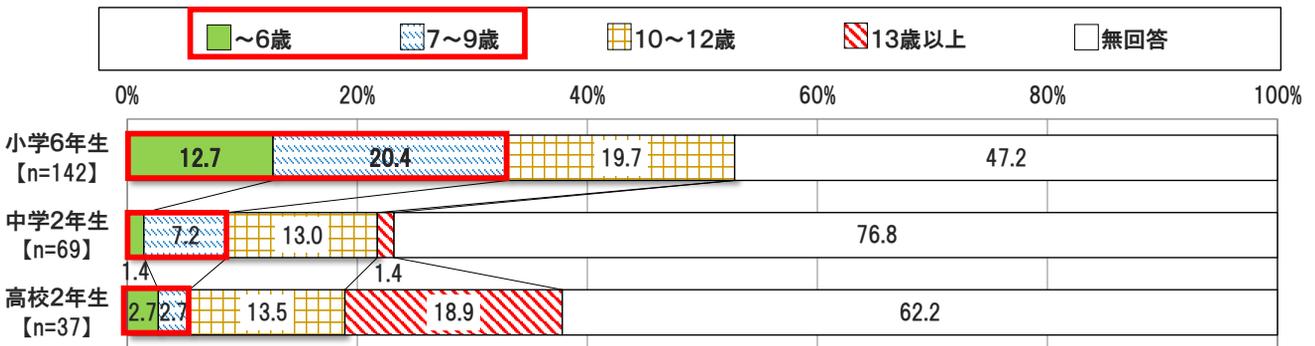
⑦ 世話を一緒にしている人

- すべての学年で「お母さん(母親)」が最も高くなっている。次いで「お父さん(父親)」、「きょうだい」が高くなっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、国の調査結果と類似した傾向である。



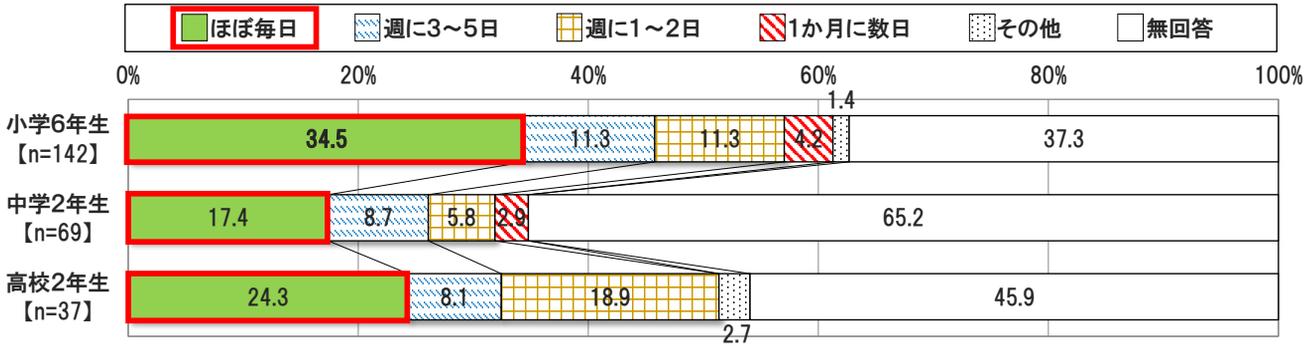
⑧ 世話を始めた年齢

- 10歳未満と回答した割合は、小学6年生が33.1%、中学2年生が8.6%、高校2年生が5.4%となっている。低学年になるにつれて割合がともに増加しており、特に小学6年生が高くなっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、国の調査結果と類似した傾向である。

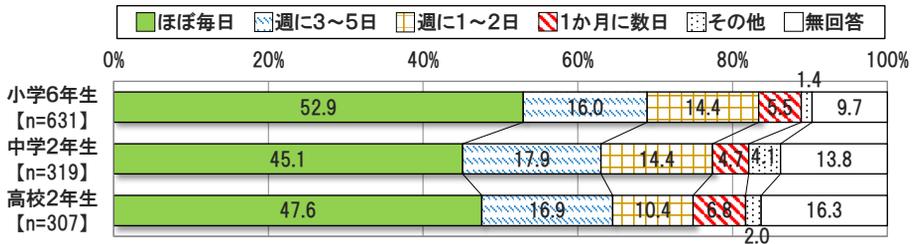


⑨ 世話をしている頻度

- 世話をしている頻度は、小学6年生は**34.5%**、中学2年生は**17.4%**、高校2年生は**24.3%**が「**ほぼ毎日**」で最も高くなっている。小学6年生は「ほぼ毎日」(34.5%)がほかの学年と比較して高くなっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、国の調査結果と比べて全体的に「ほぼ毎日」の割合は低くなっている。

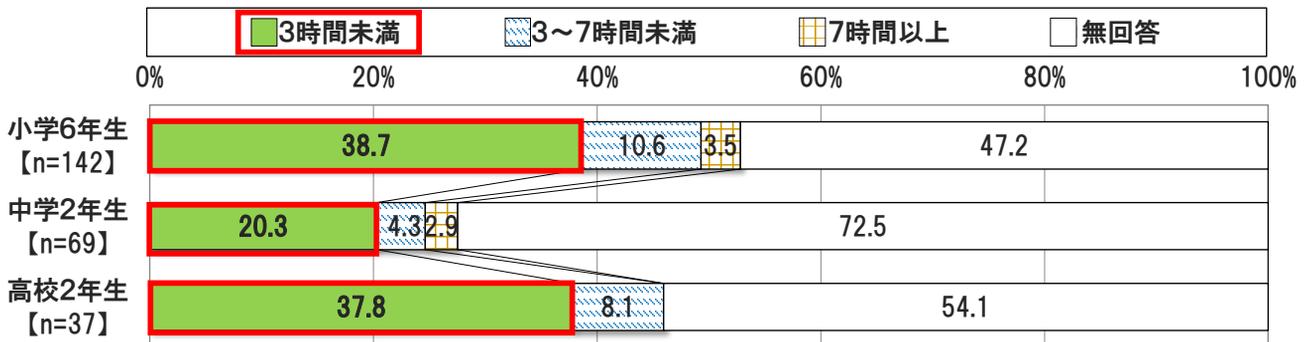


参考
国調査

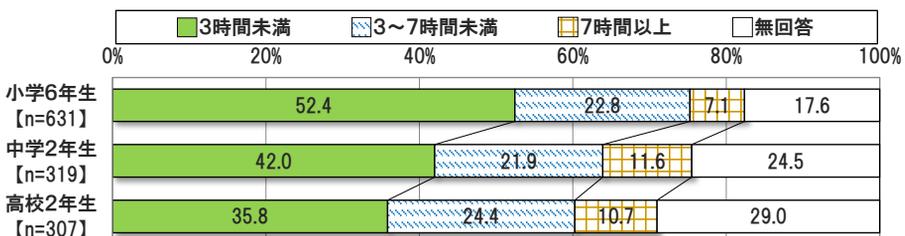


⑩ 平日1日当たりの世화에費やす時間

- 世화에費やす時間は、すべての学年で「**3時間未満**」が最も高くなっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、3時間以上は国の調査結果と比べて低くなっている。

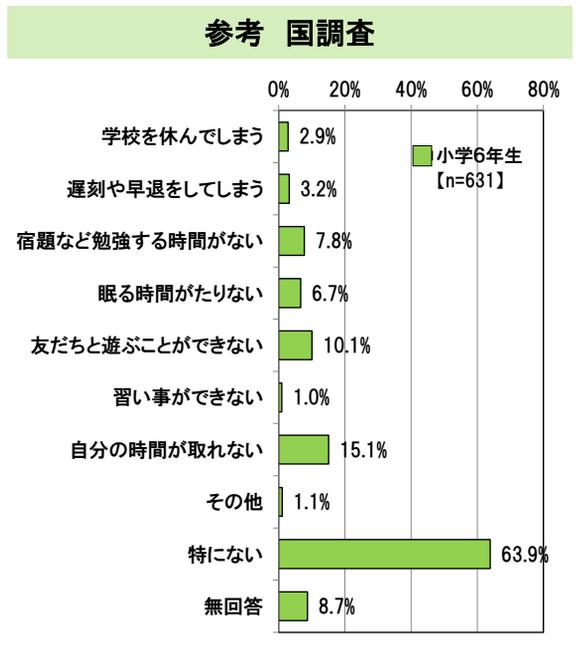
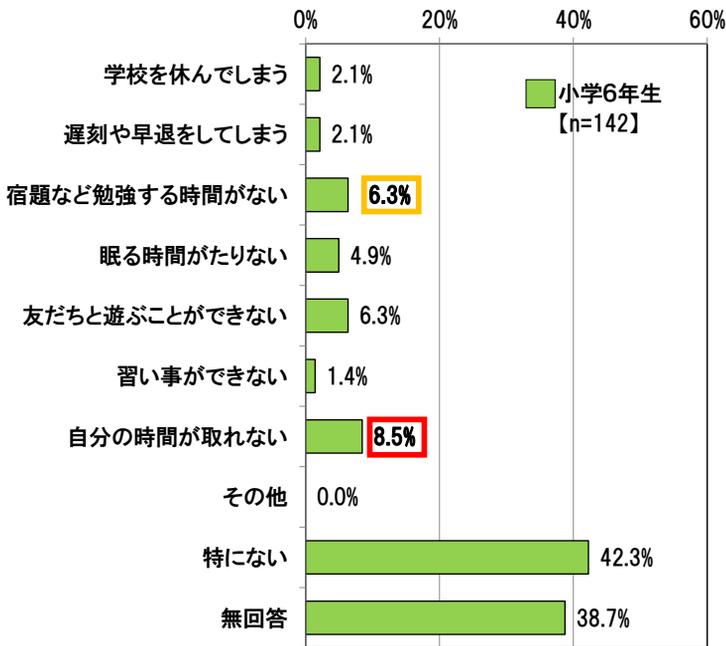


参考
国調査



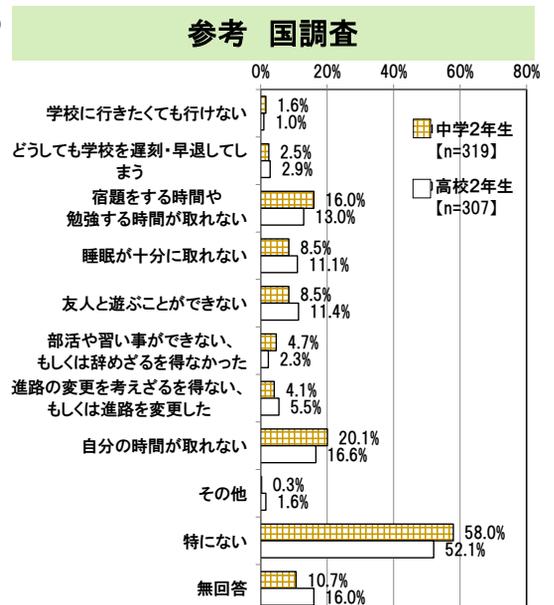
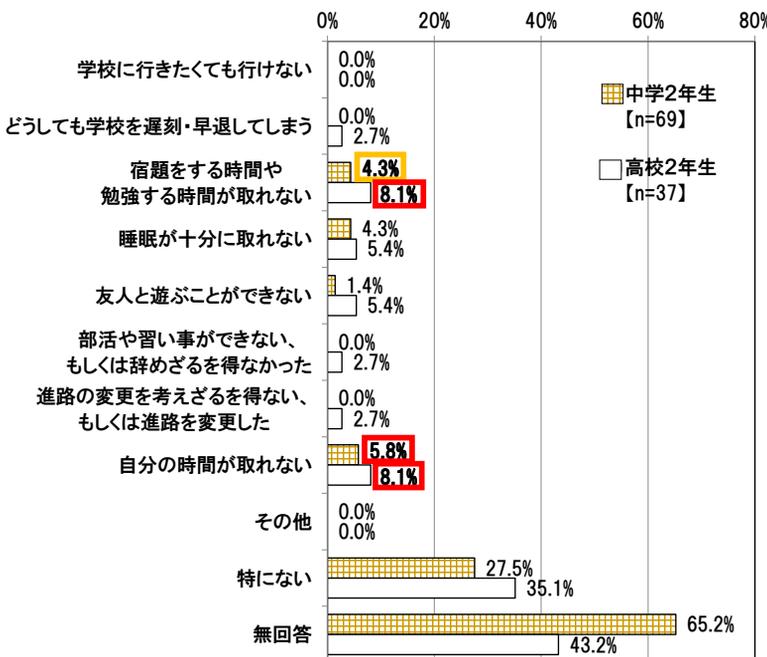
⑪ お世話をしているために、やりたいけれどできていないこと(小学6年生)

● 説明は⑫へ記載する。



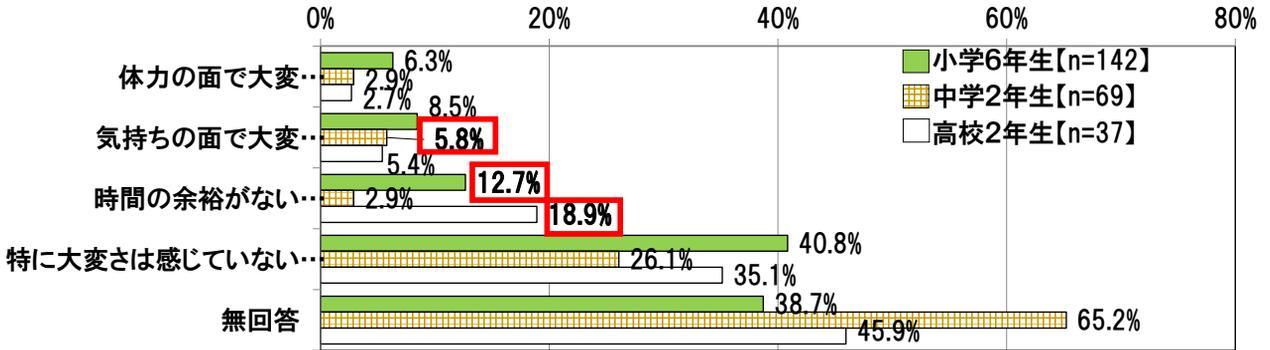
⑫ お世話をしているために、やりたいけれどできていないこと(中学2年生、高校2年生)

● 各世代「特にない」が最も高くなっている。そのほかでは、「自分の時間が取れない」、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない(宿題など勉強する時間がない)」が高くなっている。

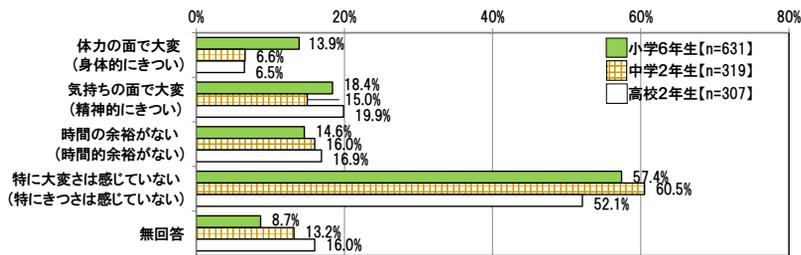


⑬ 世話の大変さ

- 各世代「特に大変さは感じていない」が最も高くなっている。そのほかでは、小学6年生、高校2年生では「時間の余裕がない(時間的余裕がない)」が高くなっている。また、中学2年生では、「気持ちの面で大変(精神的にきつい)」が高くなっている。

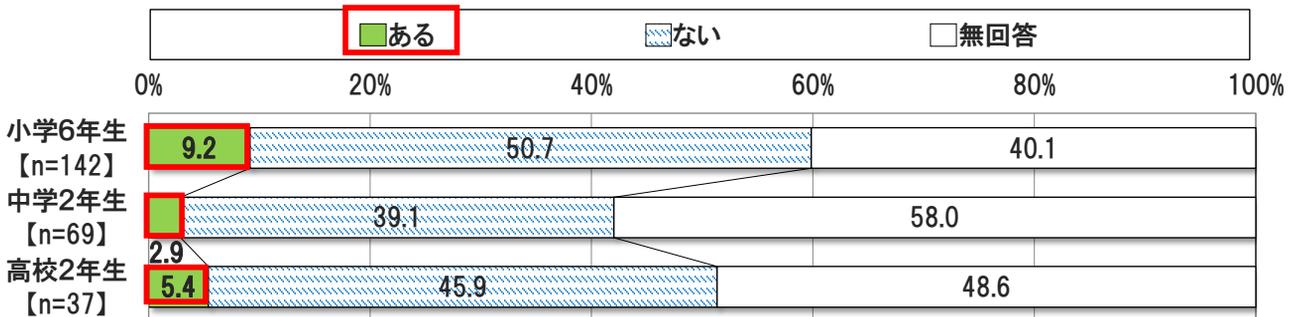


参考
国調査

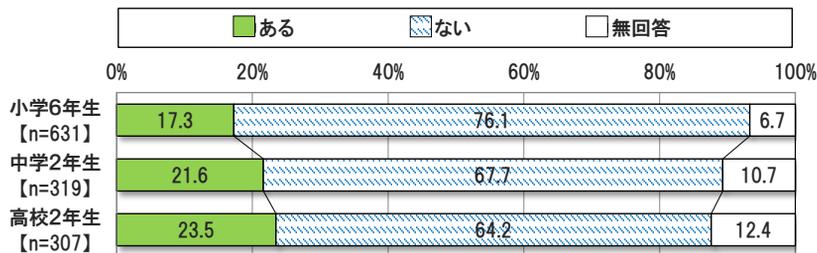


⑭ 世話について相談した経験

- すべての学年で「ある」が10.0%未満となっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、国の調査結果と比べて「ある」の割合が低くなっている。

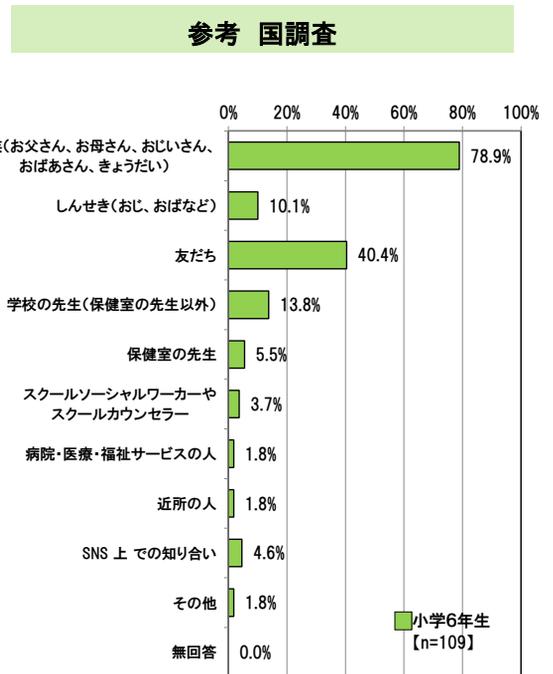
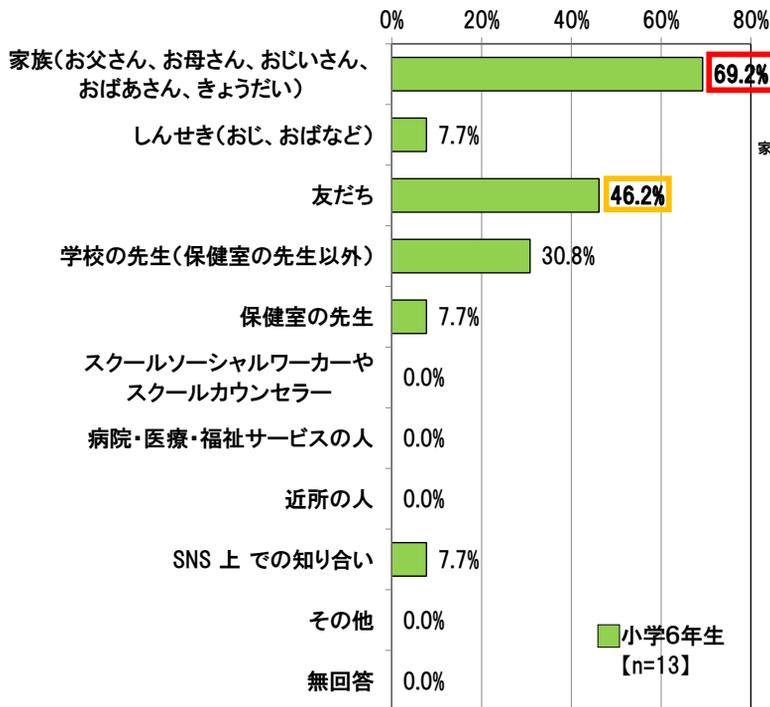


参考
国調査



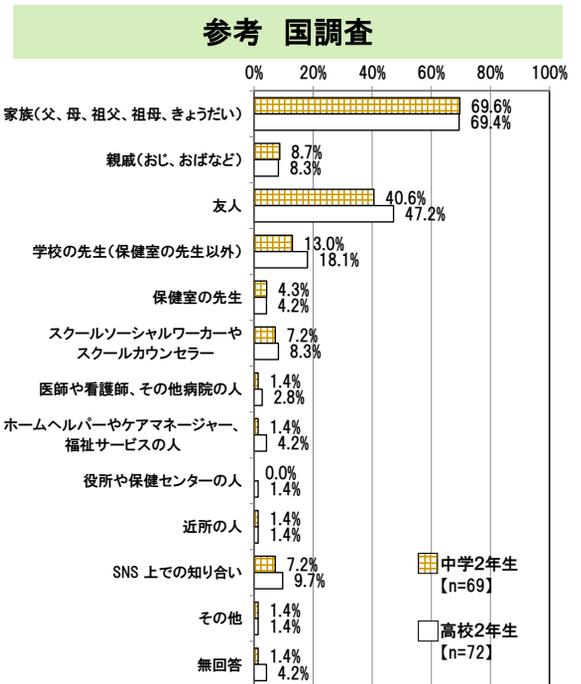
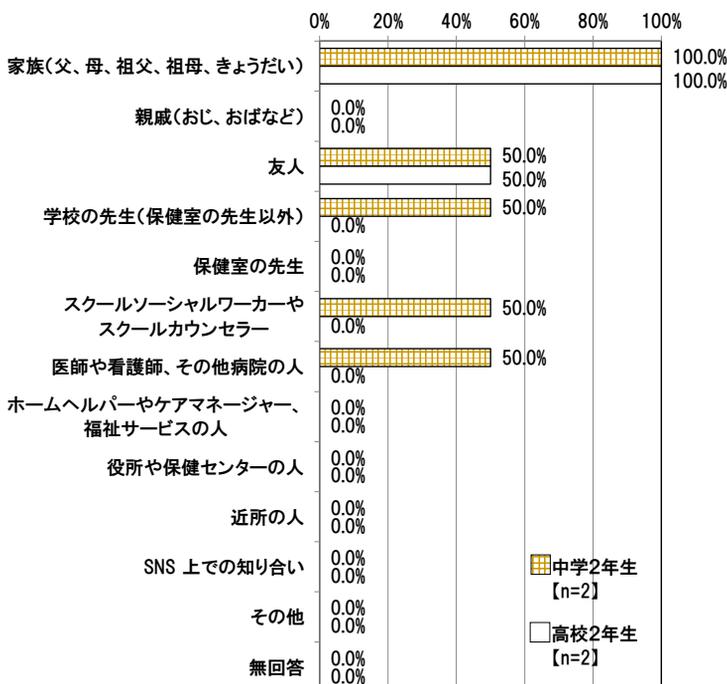
⑮ 世話についての相談相手(小学6年生)

● 説明は⑮へ記載する。



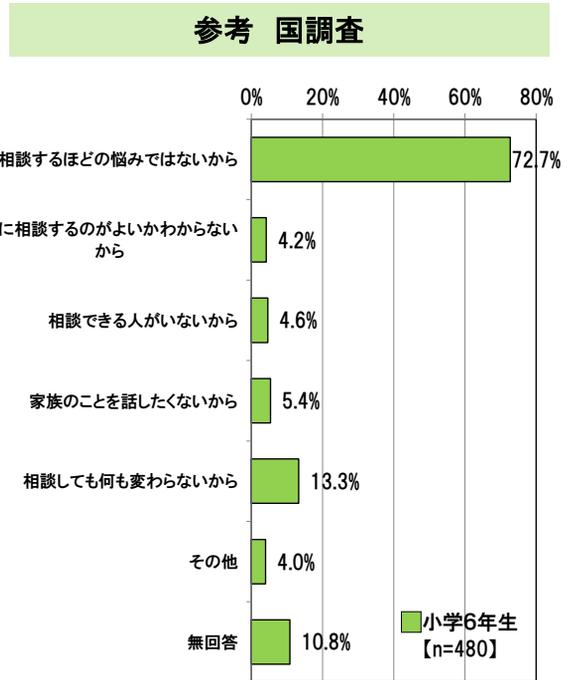
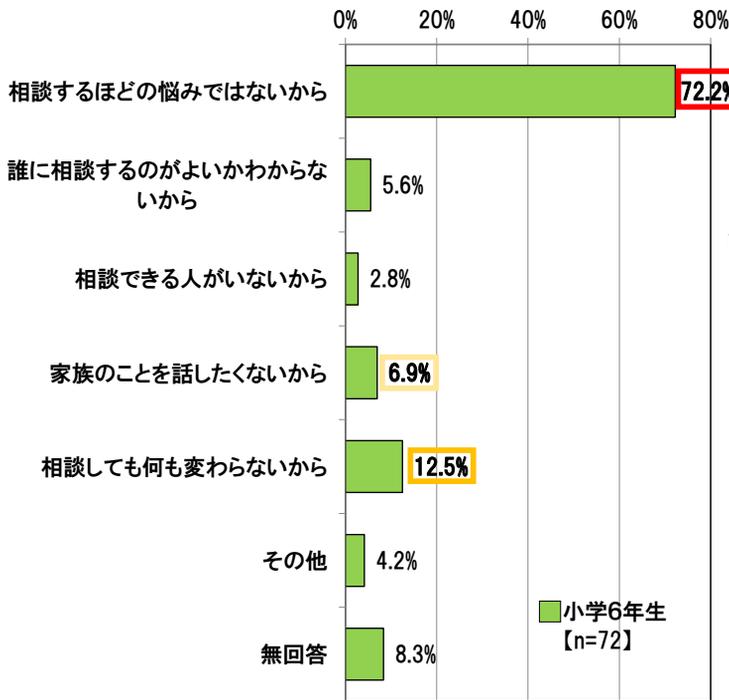
⑯ 世話についての相談相手(中学2年生、高校2年生)

● すべての学年で「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も高くなっている。次いで「友人」、「学校の先生(保健室の先生以外)」が高くなっている。



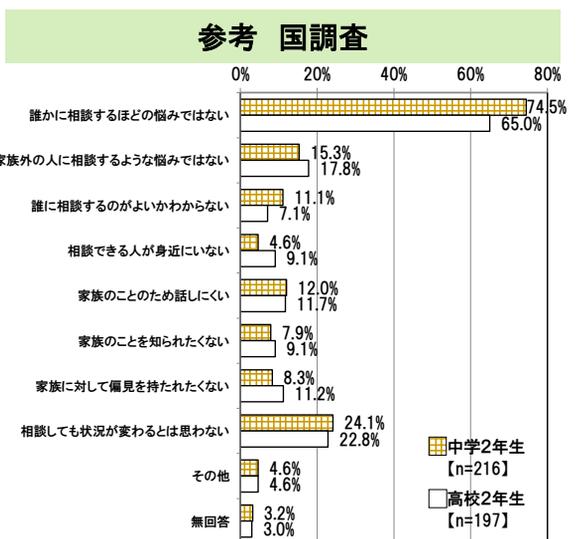
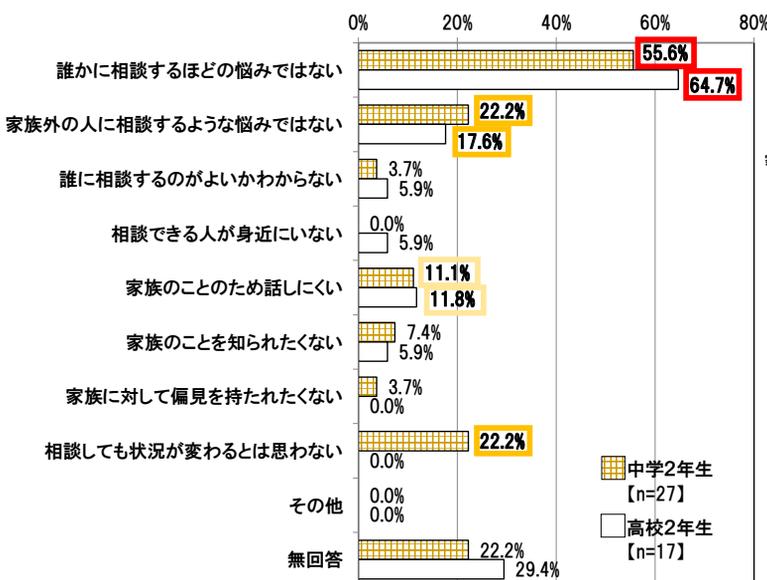
⑰ 世話について相談したことがない理由(小学6年生)

● 説明は⑱へ記載する。



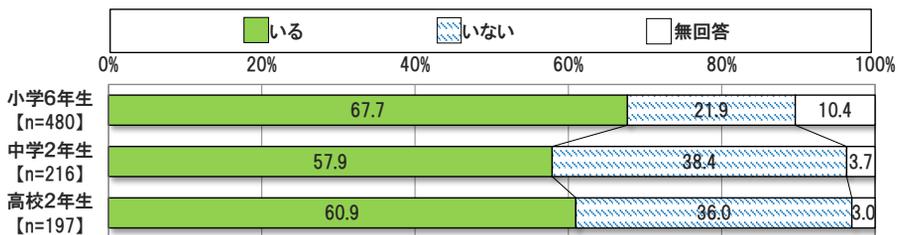
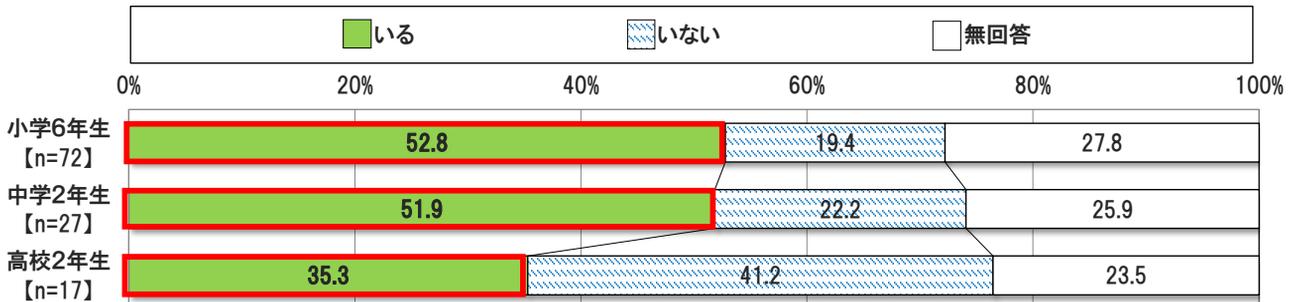
⑱ 世話について相談したことがない理由 (中学2年生、高校2年生)

- お世話について相談したことがない理由は、各世代「相談するほどの悩みではない」が最も高くなっている。そのほかでは、小学6年生と中学2年生では「相談しても何も変わらないから(相談しても状況が変わるとは思わない)」が高くなっている。中学2年生と高校2年生では「家族外の人に相談するような悩みではない」が高くなっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、国の調査結果と類似した傾向である



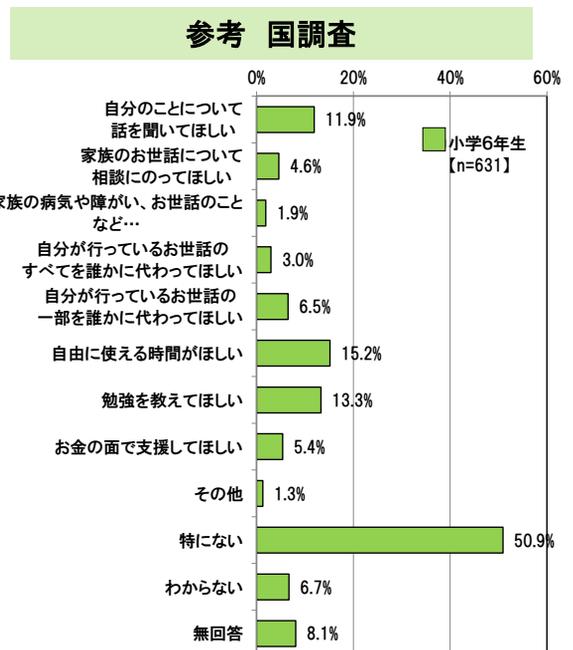
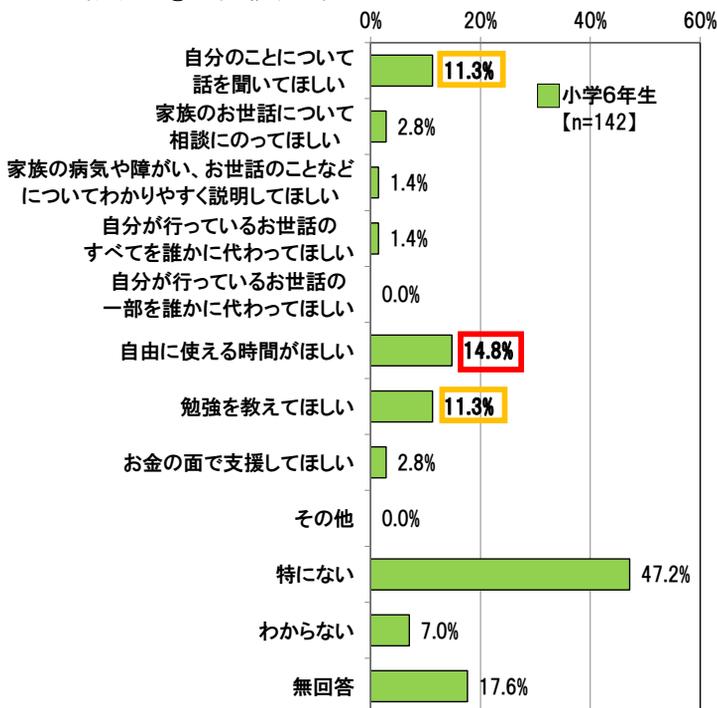
⑱ 世話について話を聞いてくれる人の有無

- 世話について相談した経験がないと回答した児童生徒で、世話について話を聞いてくれる人の有無は、小学6年生は52.8%、中学2年生は51.9%、高校2年生は35.3%が「いる」となっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、「いる」と回答した割合が、国の調査結果より低い傾向である。



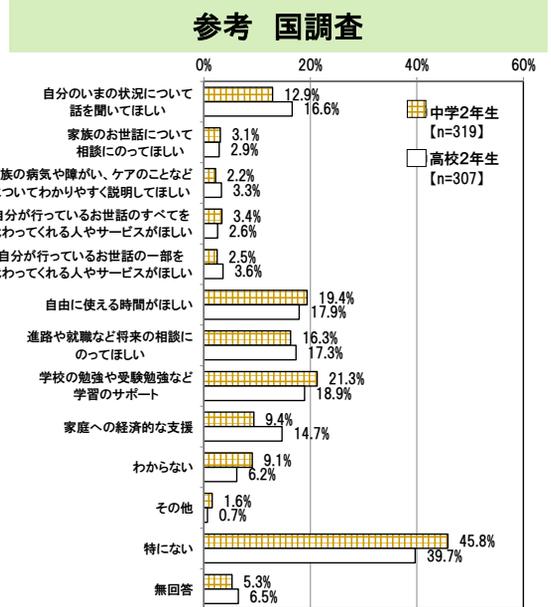
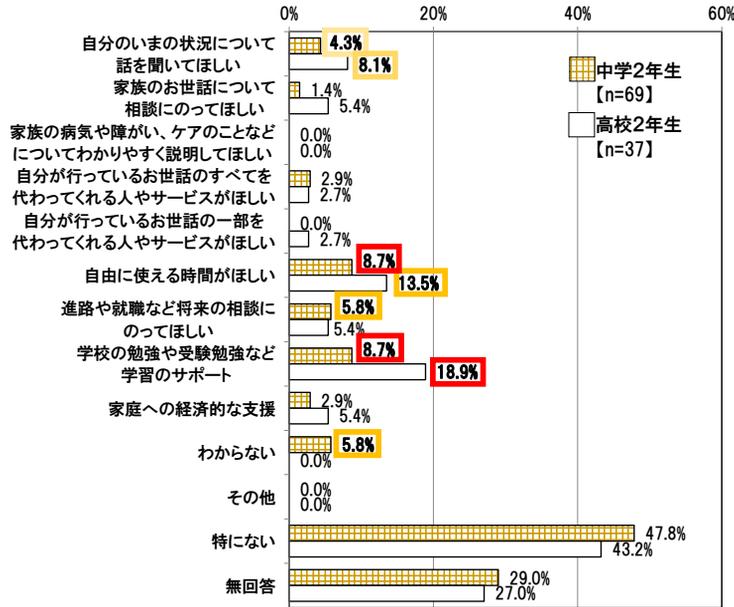
⑳ 学校や大人にしてもらいたいこと、必要な支援 (小学6年生)

- 説明は㉑へ記載する。



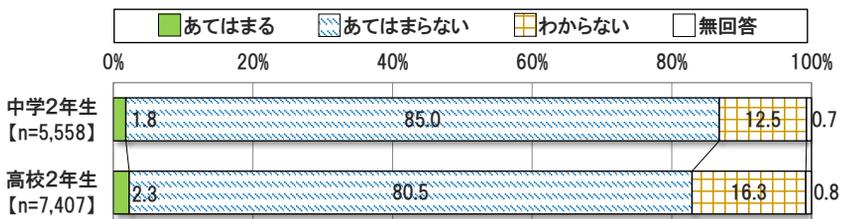
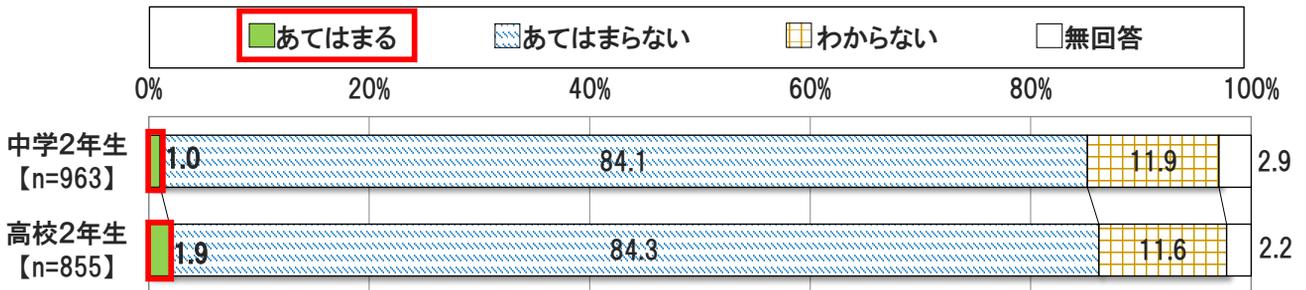
⑳ 学校や大人にしてもらいたいこと、必要な支援 (中学2年生、高校2年生)

- すべての学年で「特にない」が最も高くなっている。次いで「自由に使える時間がほしい」、「学校の勉強や受験勉強など勉強のサポート(勉強を教えてほしい)」が高くなっている。
- そのほかでは、中学2年生の「進路や就職など将来の相談にのってほしい」(5.8%)、高校2年生の「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」(8.1%)が高くなっている。



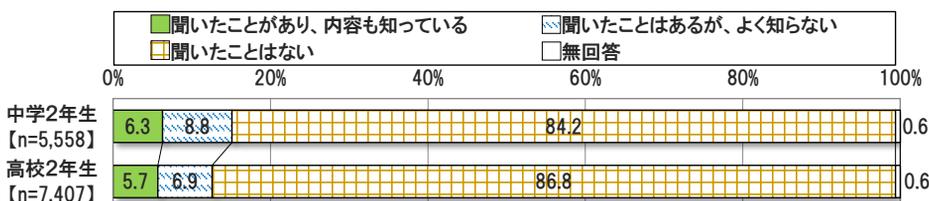
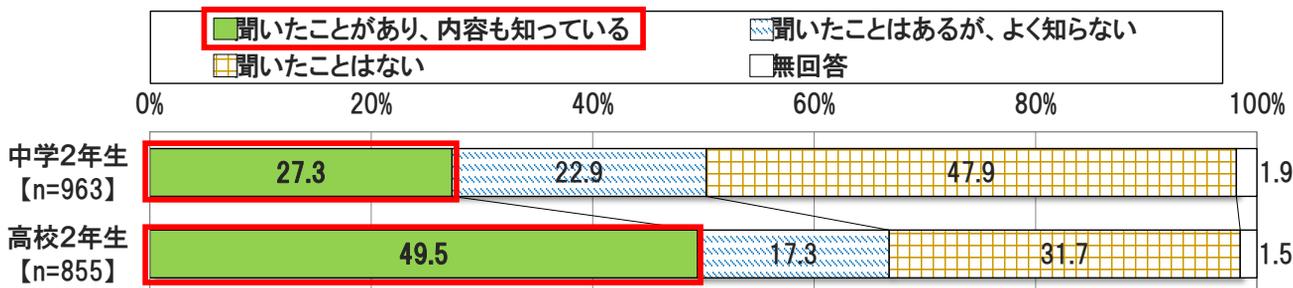
㉑ ヤングケアラーの自己認識

- 中学2年生で1.0%、高校2年生で1.9%が「あてはまる」と回答した。(小学6年生は設問なし)
(「あてはまらない」には、お世話をしている家族の有無で、「いない」と回答した人を含む。)
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、中学2年生・高校2年生は自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した割合が、国の調査結果より低い傾向となっている。



②③ ヤングケアラーの認知度

- 「聞いたことがあり、内容も知っている」は、中学2年生は27.3%、高校2年生は49.5%となっている。
- 国の調査とは規模や調査時期・無回答の割合などが異なるため、一概に比較することは難しいが、ヤングケアラーという言葉「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した割合が、国の調査結果より高くなっている。



追加分析① 世話をしている家族の有無 × 家族構成

- 世話をしている家族が「いない」と回答した児童生徒に比べて、「いる」と回答した児童生徒は、「ひとり親家庭」、「二世帯世帯」の割合が高い傾向がある。それぞれの差は、「二世帯世帯」では、小学6年生が1.6ポイント、中学2年生が0.3ポイント、高校2年生が4.8ポイント、「ひとり親家庭」では小学6年生が3.8ポイント、中学2年生が5.2ポイント、高校2年生が6.8ポイントとなっている。

		回答者数 (人)	(%)				
			二世帯世帯	三世帯世帯	ひとり親家庭	その他の世帯	無回答
小学6年生	いる	142	57.0	33.1	9.9	0.0	0.0
	いない	1,070	55.4	36.6	6.1	0.4	1.5
中学2年生	いる	69	53.6	30.4	13.0	2.9	0.0
	いない	869	53.3	37.2	7.8	0.5	1.3
高校2年生	いる	37	54.1	29.7	16.2	0.0	0.0
	いない	808	49.3	38.0	9.4	0.4	3.0

追加分析② 世話をしている家族の有無 × 健康状態

- 小学6年生と中学2年生について、世話をしている家族が「いない」と回答した児童生徒に比べて、「いる」と回答した児童生徒は、健康状態が「あまりよくない」、「よくない」と回答した割合の合計が高くなっている。小学6年生では、「よくない」は「いない」の0.7%に対して、「いる」は2.8%で、4.0倍の割合となっている。中学2年生では、「よくない」は「いない」の0.8%に対して、「いる」は4.3%で、約5.4倍の割合となっている。
- 高校2年生について、世話をしている家族が「いない」と回答した生徒に比べて、「いる」と回答した生徒は、健康状態が「よい」、「まあよい」と回答した割合の合計が3.7ポイント低くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
小学6年生	いる	142	50.7 73.2	22.5	19.0	4.2 7.0	2.8	0.7
	いない	1,070	50.8 71.2	20.4	23.2	3.4 4.1	0.7	1.6
中学2年生	いる	69	50.7 71.0	20.3	17.4	7.2 11.5	4.3	0.0
	いない	869	48.1 70.8	22.7	24.5	2.8 3.6	0.8	1.2
高校2年生	いる	37	48.6 67.5	18.9	32.4	0.0 0.0	0.0	0.0
	いない	808	44.9 71.1	26.2	22.0	3.8 4.5	0.7	2.2

追加分析③ 世話をしている家族の有無 × 出席状況

- すべての学年で、世話をしている家族が「いない」と回答した児童生徒に比べて、「いる」と回答した児童生徒は、「たまに欠席する」、「よく欠席する」と回答した割合の合計が高くなっている。特に、小学6年生では、「よく欠席する」は「いない」の0.9%に対して、「いる」は2.1%で、約2.3倍の割合となっている。

(%)

		回答者数 (人)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく欠席する	無回答
小学6年生	いる	142	78.9	18.3	2.1	0.7
	いない	1,070	80.9	16.4 17.3	0.9	1.8
中学2年生	いる	69	75.4	13.0	11.6	0.0
	いない	869	78.3	10.9 20.0	9.1	1.7
高校2年生	いる	37	75.7	18.9	5.4	0.0
	いない	808	74.0	13.4 23.5	10.1	2.5

追加分析④ 世話をしている家族の有無 × 遅刻や早退の状況

- 小学6年生と中学2年生について、世話をしている家族が「いない」と回答した児童生徒に比べて、「いる」と回答した児童生徒は、「たまにする」と「よくする」と回答した割合の合計が高くなっている。一方、高校2年生では低くなっている。
- 特に、中学2年生では、「よくする」は「いない」の1.7%に対して、「いる」は2.9%で、約1.7倍の割合となっている。

(%)

		回答者数 (人)	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
小学6年生	いる	142	85.2	13.4 14.8	1.4	0.0
	いない	1,070	87.0	10.3 11.4	1.1	1.6
中学2年生	いる	69	72.5	24.6 27.5	2.9	0.0
	いない	869	86.4	10.5 12.2	1.7	1.4
高校2年生	いる	37	89.2	10.8	0.0	0.0
	いない	808	84.7	10.8 10.9 12.4	1.5	3.0

追加分析⑤ 世話をしている家族の有無 × 学校生活であてはまること

- すべての学年で、世話をしている家族が「いない」と回答した児童生徒に比べて、「いる」と回答した児童生徒は、「特にない」が低くなっている。
- 世話をしている家族が「いない」と回答した児童生徒に比べて、「いる」と回答した児童生徒は、「提出物を出すのが遅れることが多い」や「宿題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」などが高い傾向にある。

(%)

		回答者数 (人)	授業中に寝てしまうことが多	宿題ができていないことが多	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れること が多い	修学旅行などの宿泊行事を欠 席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが 多い	友達と遊んだり、おしゃべ りしたりする時間が少ない	特にな い	無回 答
小学6年生	いる	142	7.7	15.5	30.3	2.8	19.7	0.7	3.5	7.7	4.2	54.2	0.7
	いない	1,070	5.2	10.3	20.7	2.8	15.0	0.6	0.6	5.2	3.6	66.2	2.9
中学2年生	いる	69	23.2	33.3	17.4	2.9	30.4	2.9	1.4	5.8	4.3	50.7	0.0
	いない	869	17.5	22.6	23.9	5.2	22.8	0.9	0.6	3.8	3.2	53.5	3.2
高校2年生	いる	37	27.0	18.9	21.6	5.4	24.3	0.0	0.0	8.1	5.4	43.2	5.4
	いない	808	35.1	15.1	14.4	3.8	14.2	0.2	0.9	5.2	5.7	45.3	4.6

追加分析⑥ 世話をしている家族の有無 ×現在の悩みごと(小学6年生)

- 世話をしている家族が「いない」と回答した児童に比べて、「いる」と回答した児童は、「友だちのこと」(18.3%)が5.4ポイント、「学校の成績のこと」(16.2%)が5.9ポイント、「家族のこと」(10.6%)が5.9ポイント、「自分のために使える時間が少ないこと」(9.9%)が5.5ポイント高くなっている。

(%)

		回答者数(人)	友だちのこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
小学6年生	いる	142	18.3	16.2	6.3	10.6	5.6	9.9	4.9	55.6	3.5
	いない	1,070	12.9	10.3	5.6	4.7	2.8	4.4	3.2	68.5	4.1

追加分析⑦ 世話をしている家族の有無 ×現在の悩みごと(中学2年生、高校2年生)

- 世話をしている家族が「いない」と回答した生徒に比べて、「いる」と回答した生徒は、「自分のために使える時間が少ない」、「家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)」、「病気や障がいのある家族のこと」などが高くなっている。

(%)

		回答者数(人)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	家庭の経済状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
中学2年生	いる	69	10.1	33.3	37.7	11.6	1.4	0.0	5.8	5.8	10.1	2.9	8.7	2.9	43.5	2.9
	いない	869	12.8	34.9	34.9	15.8	1.3	0.9	1.7	2.9	3.6	0.9	3.6	1.5	42.5	4.6
高校2年生	いる	37	10.8	32.4	48.8	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	10.8	0.0	29.7	0.0
	いない	808	11.8	34.4	46.9	12.0	3.6	0.7	5.8	2.4	2.6	0.6	5.1	1.5	34.0	5.4

追加分析⑧ 世話をしている家族の有無 × 相談相手の有無

- 小学6年生の「相談相手や話を聞いてくれる人がいない(いない)」は、「いない」の10.6%に対して、「いる」は23.0%で、約2.2倍の割合となっている。高校2年生も同様に、「いない」の5.4%に対して、「いる」は11.5%で、約2.1倍の割合となっている。
- 中学2年生の「相談や話はしたくない(話はしたくない)」は、「いる」の23.1%に対して、「いない」は31.5%で、約1.4倍の割合となっている。

(%)

		回答者数 (人)	相談相手や話を聞いてくれる人がいる (いる)	相談相手や話を聞いてくれる人がいない (いない)	相談や話はしたくない (話したくない)	無回答
小学6年生	いる	61	50.8	23.0	23.0	3.3
	いない	321	52.6	10.6	28.5	8.3
中学2年生	いる	39	64.1	5.1	23.1	7.7
	いない	473	59.4	5.5	31.5	3.6
高校2年生	いる	26	73.1	11.5	15.4	0.0
	いない	498	74.5	5.4	17.9	2.2